

教理研究院

「真の父母論」(天の摂理から見た真の父母様の位相と価値)を学ぶときの基本姿勢(1)

真のお母様を中心とする天の摂理完成の時を迎え、今「真の父母論」の安着が願われています。「真の父母論」を理解するため、韓国教授陣による映像が準備されています。各講座の内容(「真の父母論」)を学んでいくに当たって、その基本姿勢(心構え)についてお伝えします。

教理研究院

注、真の父母様のみ言や「原理講論」等は「青い字」で表記しています。

(1) 真のお父様は、真のお母様の生涯路程を常に重視され、お母様と共に摂理を推進された

「真の父母論」で論じられているように、真の父母様は摂理完成のための「中心軸」に立っておられます。真のお父様は摂理を進めるに当たって、真のお母様を立てられ、常に摂理を推進してこられたことを理解しておく必要があります。

非原理集団は、お母様によつ

てお父様の伝統が覆されているかのように批判しています。しかし、この批判は、真のお父様が今日まで、いかに真のお母様を重視して摂理を進めてこられたのかを知らずにしているものにすぎません。

具体例を挙げると、非原理集団は、お父様が二〇一〇年に定められた「天基元年」の年号が、二〇一三年にお母様によって「天一国元年」に改められた。お父様が立てられた伝統をお母

様が覆していると批判します。しかし、この批判は、真のお父様の摂理観と一致していない批判です。お父様が定められた摂理は、真のお母様と共に、あつたものであり、お父様が定められた「基元節」の持つ意義を理解していれば生じることのない批判であると言わざるをえないからです。

真のお父様は二〇一〇年に「天基元年」を宣布されました。そして二〇一三年一月十三日の「基元節」をDデーと定め、三度目の「聖婚式」を行うと語っておられました。それほどまでに重要なのが「基元節」です。真のお母様は、お父様が定められた二〇一三年一月十三日の「基元節」を迎えて、「天一国元年」を宣布されました。これは、お父様の願いに基づいたものです。

真のお父様が推進された天の摂理は、常に真のお母様の勝利圏と共にあつた事実を踏まえ、

以下の内容に対し、理解をさらに深めなければなりません。

① 一度目の「聖婚式」(小羊の婚宴)と「天紀元年」の発表

まず、一九六〇年の真のお母様との一度目の「聖婚式」を機に、人類の「真の父母」が立つたことを宣言されました。真のお父様はそれを「小羊の婚宴」と呼ばれ、お父様はお母様と共に祝福結婚による血統転換をなしながら、人類の救援摂理を推し進められました。お父様だけでなく、お母様がおらずして人類の救援摂理はありえないことを知らなければなりません。

真のお父様は一九七七年二月二十三日のご誕生日に「天紀元年」を発表されました。その日を「地勝日(天地勝利の日)」とされ、次のようにみ言を語られました。「陰暦の一九七七年の一月六

日は私と妻の誕生日であり、また歴史的新紀元の年(天紀元年)を発表した日として、全員でそれを祝いました。全宇宙も祝ってくれます。……天宙的新紀元が始まるからです。きょう、妻

(真のお母様)は三十四歳を越えます。イエス様は、三十三歳以上行くことができませんでした。イエス様は、三十四歳の誕生日を神と共に祝いたかったのです。しかし、十字架のゆえに



真の父母様のご聖婚33周年記念式典で真のお母様に指輪を贈られる真のお父様(1993年4月7日、米国・ニューヨーク、イーストガーデン)



「真の父母様天宙勝利祝賀宣布」において真のお母様に表彰牌を贈られる真のお父様(1999年6月14日、韓国・ソウル、オリンピック公園体操競技場)

できませんでした。今年、妻は、三十四歳を越え、イエス様の三十三歳を越えていくことになりました。ですから、そういう意味でも、きょうは最も記念すべき日なのです(「祝福家庭と理想天国(II)」557~558ページ、「御旨と世界」は545ページ) 真のお母様は、真のお父様と共に、摂理の中心軸となつておられるのです。このように、お母様が三十四歳を迎えられた時に、イエス様の越えられなかつた三十三歳を越えたとして、お父様は「天紀元年」を発表

② 聖婚三十三周年に「成約時代」を宣布

次に、真のお父様は一九九三年に「成約時代」を宣布され、そこから「成約時代」を数えていかれました。お父様は一九九三年の「父母の日」に、次のように語られました。

「きょうは第三十四回父母の日です。三十三周年です。三十三は完成を意味します。それは、きょうの父母の日はイエス様の年齢だということです。イエス様は、三十三歳の時に家庭をなすはずでしたが、十字架で亡くなり、その立場をなせませんでした(「祝福」1993年夏季号、55ページ)

このように、真のお母様のご聖婚三十三周年を「完成を意味」と語っておられます。真のお父様はイーストガーデン

で「特別なお祝い」をされ、お母様に指輪を贈られました。そのお祝いについて次のように語られています。

「この前、イエス様の三十三回目の誕生日を祝いましたね。……それで先生は、イエス様を解放して、イエス様が家庭を持つて四十三歳(真のお母様の還暦の2003年)になるまでに、完全な世界的基盤をつくらなければならぬので、急いでいるのです(「ファミリー」1993年9月号35ページ)

このように、真のお母様の還暦の年を目指し、「完全な世界的基盤をつくらなければならぬ」と語っておられます。お母様は、真のお父様と共に、摂理の中心軸となつておられるのです。

そして、一九九三年から「成約時代」を数えられ、成約時代七年目(1999年)の六月十

四日、第三十七回「真の万物の日に」真の父母様天宙勝利祝賀宣布式」を挙行されました。真のお父様は真のお母様に、表彰牌を贈られ、おふたりが対等な位置にあることを繰り返し明言され、次のように語られました。

「あなた(真のお母様)は……真の父母の使命を完遂されました」(「真の父母経」1440ページ)。「お母様が今からは対等な位置に立つようになりました。男女平等圏時代が訪れたのです」(同1441ページ)



2度目の聖婚式となる「天地父母様天一国開門祝福聖婚式」での真の父母様(2003年2月6日、天宙清平修練苑)

真のお父様は、真のお母様が真の父母として「対等な位置」「同等な立場」に立ち、さらに「天国の門を私(お父様)よりも先にお母様が開かなければならない」(「ファミリー」1999年6月号21ページ)とまで語られました。お母様は、お父様と共に、摂理の中心軸」となっておられるのです。

③真のお母様の還暦の時、二度目の「聖婚式」を挙行

さらに、真のお父様は二〇〇一年一月十三日に「神様王権即位式」を挙行し、「天一国時代」を宣布されました。そこから「天一国時代」を数えていかれ、天一国時代三年目に「二〇〇一年一月十三日を中心として、天一国一年、二年、三年に、天一国開門祝福聖婚式(2度目の結婚式)をしました。祝福聖婚式をし

たので、天一家庭において、真の父母が王の位置に立つことができるのです。それで、天宙・天地父母が四位基台を備え得る位置に立つて天国に入っていくることにより、天国が開いて心情的な一体圏ができるのです」(「後天時代の生活信仰」59ページ)と語られました。

二〇〇三年陽暦二月六日は、真のお母様の「還暦」であり、「(お母様の還暦の2003年)になるまでに、完全な世界的基盤をつくらなければならぬので、急いでいるのです」と語られた内容が実現したものでした。

この二度目の聖婚式は、アダムとエバが堕落せずに完成して行はずだった「神様の結婚式」であり、真のお父様は「婚姻申告」「出生申告」をされました。この二度目の神様(天の父母様)の結婚式によって、神様は文鮮明・真のお父様と韓鶴子・真の

お母様のおふたりの姿をもって顕現されるようになりました(「ファミリー」2003年5月号25〜27ページ)。

真のお父様と真のお母様のおふたりは、神様の「実体の立場」に立つておられるのです。この出来事は、お母様の「還暦」の時に合わせて行われたものでした。お母様は、お父様と共に、摂理の中心軸」となっておられるのです。

④「基元節」を目指して、金婚式の年に「天基」を発表し「最終一体」を宣言

真のお父様は、二〇一〇年二月十四日、第四十三回「真の神の日」「神様王権即位式九周年」に「天暦」を発表し、そこから「天基」を数えていられました。そして「二〇一三年一月十三日は、天、国の起源となる日です。……摂理がかかっているその日まで、その期間内に教育を完了

し……すべてのことが終わるので」(「トゥデイズ・ワールド ジャパン」2010年4月号12〜13ページ)と語られました。

この「天基」は、二〇一〇年天暦三月十六日(陽暦4月29日)に「天地人真の父母様御聖婚五十周年金婚式」が行われた年が起点であり、真のお母様との「金婚式」において定められたものです。

この「天地人真の父母様御聖婚五十周年金婚式」の勝利圏が立った年、真のお父様は「最終一体」を宣言し、次のように語られました。

「皆様、去る(2010年)天暦五月八日(陽暦6月19日)午前二時二十分と五月十五日(陽暦6月26日)午前三時二十五分、このように両日にかけてアメリカのラスベガスにおいて神様を中心とした天地人真の父母様の特別宣布が行われまし

た。……すでに真の父母様ご夫妻は最終一体を成して、完成、完結、完了の基準で、全体、全般、全権、全能の時代を奉獻宣布されたのです」(「トゥデイズ・ワールド ジャパン」2010年9月号12ページ)

「最終一体」とは、過去にもなく、未来にもない、空前絶後の真の父母が顕現されたことを宣言したものです。空前絶後について、真のお父様は次のように語られました。

「真の父母が二組いることはできません。……人類の父母が一度現れるのが、歴史の願いであり……摂理の願いであるために、その父母が現れる時は、あとも先にもない時であり、歴史上に一度しかない頂上なのです」(八大教材・教本『天聖経』230ページ)

「真の父母というのは一組しかいないのです。人類の一組し

かない父母だということです。歴史に初めて登場した、空前絶後の真の父母が顕現した時代が成約時代だということです」(同2400ページ)

この「最終一体」宣言は、極めて重要であり、未来永劫にわたる歴史的宣言です。真のお母様は、真のお父様と共に、摂理の中心軸」となっておられるのです。

以上、述べてきたように、真のお父様は、常に真のお母様の生涯路程の「節目」となる時に、共に「天紀」「成約時代」「天一国時代」「天基」を数えていかれました。そして、お父様自身も、「二〇一三年一月十三日は、天、国の起源となる日です」と語っておられたように、お母様は、二〇一三年天暦一月十三日の「基元節」(Dデー、3度目の聖婚式)をもって「天、国の元年」を発表されたのです。こ

れは「天、国の起源となる日」を期して発表されたものでした。そこから「天、国」を数えていかれたのですが、これは、どこまでもお父様のみ言に基づくものです。真のお父様は、常に真のお母様の生涯路程を重視され、前述したようにお母様の生涯路程の「節目」となる時に合わせながら、共に摂理を推進してこられたことを知らなければなりません。

非原理集団は、お母様によってお父様の伝統が覆されています。と批判していますが、それは、的外れな批判です。真のお父様と真のお母様は、共に神の摂理の「中心軸」であり、お父様が聖和された後は、お母様が地上において神の「摂理完成の中心軸」であることを明確に理解しなければなりません。その観点を持って「真の父母論」を学んでいかなければならないのです。